

ユース非核特使 ニューヨーク 国連 紀行 Day 1

4月27日（日） ヒロシマ → ニューヨークへ

本校、広島女学院、沖縄尚学、修道より2名ずつ、外務省「ユース非核特使」の委嘱を受けた計8名がヒロシマから飛び立ちました。

見送りには、「ヒューマンライツ部」のお母さんこと、加藤さんも足を運んで下さいました。加藤さんは1995年1月17日、愛息子の貴光さん（当時、神戸大学法学部在籍）を阪神淡路大震災で亡くしました。貴光さんの将来の夢は「国連職員として世界平和に貢献すること」。それを聞いていた本校の小川さん、箱田さん、沖縄尚学の與那覇さん、金城さんが、「貴光さんといっしょに国連に」という希望を加藤さんに連絡。息子さんの遺影を4人に託して下さいました。

ヒロシマ、オキナワの思いを世界のリーダーに伝える。使命を新たに元気に無事、NYへ到着いたしました。



ユース非核特使 ニューヨーク 国連 紀行 Day 2

4月28日（月） いよいよ今日からNPT再検討会議第3準備委員会が開催

本日は朝早く起床し、朝7時半に会場に一番乗りしました。国連本部に各国の国旗が揚がると一様に興奮し、寒さもどこへやら。

10時、ロマン・モレイ議長の開会宣言で会議が始まり、インドネシア、マーシャル諸島、日本などの外務大臣や副大臣が各国の状況やNPTに対する提言等に関するスピーチをし、それを聞きました。

NYの名門スタイベサント高校での交流は内容が濃く、多くの生徒が「私たちも署名活動に協力したい。どうすればいい？」と交流会終了後に申し出てくれました。明日はいよいよ平和首長会議 ユースフォーラム開催です。



ユース非核特使 ニューヨーク 国連 紀行 Day 3

4月29日 国連日本政府代表部主催レセプションに参加

「自治体国際化協会」のNY事務所を訪問。ここには広島など全国の12の自治体から職員が派遣されているとのことでした。

夜は国連日本政府代表部主催のレセプションに参加。岸信夫外務副大臣、アンゲラ・ケイン国連軍縮部上級代表、ローマンモレー第3準備委員会議長、松井広島市長、田上長崎市長、「広島平和文化センター」小溝理事長など、政府や市の代表の方々、および各国政府からの参加者などとも英語でコミュニケーションをはかり、若さと笑顔で自分達をアピールすることができました。これまでお会いできた方々に心より感謝しつつ、今日の練習を糧に明日の本番につなぎます。



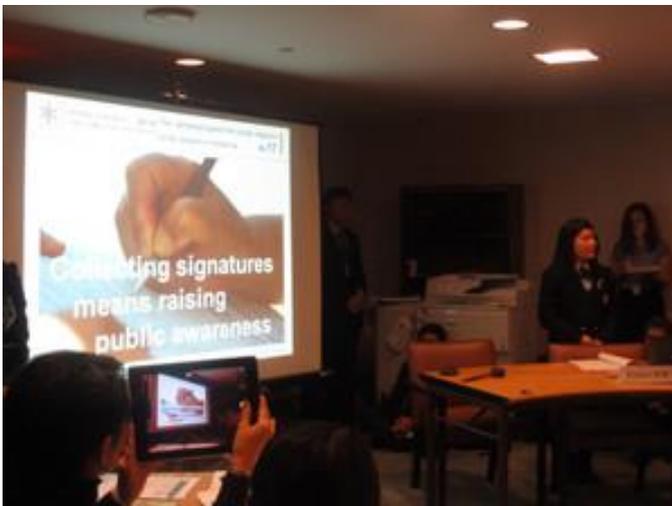
ユース非核特使 ニューヨーク 国連 紀行 Day 4

4月30日 平和首長会議 ユースフォーラム開催

ヒロシマ・オキナワ そして日本の「こころ」を伝える日がやってきました。

この日のために、参加生徒は約1か月半、幾度となく原稿の練り直しを行い、プレゼンテーションの準備のために合同特訓合宿も行いました。自分達の使命を再確認し、必ずこころを伝える！という意気込みで臨みました。本校生徒は、「もう二度と誰にも同じ思いをさせてはならない」という被爆者の復讐や敵対を超えた素朴で、しかし、崇高な言葉、これこそが「ヒロシマ」の反戦・平和の魂であり、私たちの原点であると、会場で声を大にして力いっぱい訴えました。

各国首長はじめ、参加者から、「すばらしい発表で、圧倒されつつも、感動して涙が出そうだった」と言ってもらいました。「広島平和文化センター」小溝理事長からも「すばらしいプレゼンテーションだった」とお褒めのことばを頂きました。世界が若者たちの声で動き始めた歴史的な一日となりました。



ユース非核特使 ニューヨーク 国連 紀行 Day 5

国連軍縮部トップにメッセージ伝える！

5月1日、午後から国連軍縮代表部の上級代表の方と面会。街頭署名で集めた署名を手渡し「すばらしい！とにかく若い世代がこうやって横のつながりをどんどん広げていくことこそが核廃絶につながるのよ。これからも応援していますよ」と力強い激励の言葉をかけていただきました。

さらに、国連のなかでも軍縮分野を専門とする「UNODA (国連軍縮部)」のオフィスに入ることでできた生徒たちは大興奮。国連のロゴマークも彼らにとって大きな意味をなすものとなったことでしょう。



※詳しくは「最新情報」>「2014 国連派遣生徒/活動報告」をご覧ください。